

2009●図書館展示 6-7 月

2009 年 6 月 22 日～ 7 月 31 日

《カッチーニのアヴェ・マリア》

《アルビノーニのアダージョ》

偽作？疑作？

《ハイドンのセレナード》

ハイドン (シオポルト・モーツァルト) の
《おもちゃの交響曲》

《モーツァルトの子守歌》

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

場所●図書館ブラウジングルーム・AV 資料室

偽作？疑作？

一般的に大作曲家の作品と認知され、普及している作品のなかでも、音楽学の研究によりその作曲家の作品でないことが判明したり、別の作曲家の作品と確認されたりすることがあります。今回の展示はそうした作品の中から特に有名なものを集めてみました。

Contents

《カッチーニのアヴェ・マリア》	2
《アルビノーニのアダージョ》	4
ハイドン（レオポルト・モーツァルト）の《おもちゃの交響曲》	6
《ハイドンのセレナード》	9
《モーツァルトの子守歌》	11

《カッチーニのアヴェ・マリア》

作曲者（？）

カッチーニ、ジュリオ(Caccini, Giulio 1551-1618)

イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家。

曲について

「アヴェ・マリア」とは、「おめでとう、マリアよ」の意味で、ローマ・カトリック教会の「天使祝詞」と呼ばれる祈り。(ルカによる福音書)第1章第28節および第42節の大天使ガブリエルとエリサベツの言葉に、祈願文を付加したもの。「アヴェ・マリア」はルネサンス時代にさかんに作曲されたが、バロック時代にはほとんど作曲されなくなった。

Ave Maria, gratia plena. Dominus tecum. (《ルカによる福音書》第1章第28節)
おめでとう、マリアよ、恩恵に満ちあふれた方よ、主はあなたとともにおられます。

Benedicta tu in mulieribus et benedictus fructus venturis tui jesus (Christus).

(《ルカによる福音書》第1章第42節)

女たちのうちであなたが祝福を受け、胎内の結実であるイエスも祝福されます。

Sancta Maria, (Mater Dei,) ora pro nobis (peccatoribus nunc et in hora mortis nostrae). Amen (祈願文)

聖なるマリアよ、(神の御母よ、)(罪人である)われらのために祈りたまえ、(今も、われらの死の時も、)

(金澤正剛訳)

上記の歌詞の中で、()の部分や、祈願文全部を省略して作曲される場合があるが、この(カッチーニのアヴェ・マリア)のようにただ"Ave Maria"を繰り返すだけという歌詞のものは他には見当たらない。

この曲の出典については疑問が多い。原典資料についての情報はすべて不明であり、1980年代以前の愛唱歌を集めたどの楽譜にも収録されてこなかった上、現在刊行されている出版譜は全て編曲された物で、カッチーニの曲集にも掲載されていない。上記のように歌詞がただ"Ave Maria"を繰り返すだけという内容も同時代の作曲家による「アヴェ・マリア」の様式と合致しない。これらのことから、音楽学の上ではカッチーニの作と見なされていない。

この曲の初期の録音が、スラヴァ(1995)、イネッサ・ガランテ(1995)、等ソ連のアーティストによる演奏が多かったことから、この曲の真の作曲者はソ連関連の人物ではないかと想定され、現在では作曲者はソ連の音楽家ウラディーミル・ヴァヴィロフ(Vladimir Vavilov)であるという説が有力になっている。

以上のような事実は CD や楽譜の楽曲解説では言及が無く、一般的にはカッチーニの作品と認識されている。

真の作曲者(？)

ヴァヴィロフ、ヴラディーミル・フョードロヴィチ

(Vavilov, Vladimir Fiodorovich 1925-1973)

ロシアのギタリスト・リュート奏者・作曲家。ソ連における古楽復興の立役者である。 Санктペテルブルク音楽院においてイサコフにギターを、アドモニに作曲を師事。演奏家としてだけでなく、国立楽譜出版社の校訂者、また作曲家としても活躍した。

ヴァヴィロフは、自作をきまって昔の作曲家、たいていはルネサンス音楽やバロック音楽の作曲家のものとして発表した。クライスラーなどと同様に、ヴァヴィロフも、名目上の「作曲者」の作曲様式にはまるので無頓着だった。この曲も当初は「作曲者不詳」として発表していたのだが、イネッサ・ガランテ盤等で作曲者が"Caccini"と表記され、(カッチーニのアヴェ・マリア)と認識されてしまったようである。

(カッチーニのアヴェ・マリア)とヴァヴィロフに関する情報は、当館所蔵資料には掲載されておらず、インターネットの Wikipedia の「ジュリオ・カッチーニ」<<http://ja.wikipedia.org/wiki/ジュリオ・カッチーニ>>、「ウラディーミル・ヴァヴィロフ」<<http://ja.wikipedia.org/wiki/ウラディーミル・ヴァヴィロフ>>の項目を参考にした)

展示資料

《君と旅立とう》 音楽之友社, 2005 請求記号 F24-081

当館所蔵楽譜

“Ave Maria” Schott, c1994 請求記号 F19-623

《Ave Maria》高声用 Chopin, 1997 請求記号 F20-696

《Ave Maria》高声用 増補版 Chopin, 1999 請求記号 F21-235、他

《Natale in Italia》音楽之友社, 2001 請求記号 F22-293

《Ave Maria》音楽之友社, 2001 請求記号 F22-393

当館所蔵録音資料

スラヴァ(カウンター・テノール)、他 請求記号 XD34024

イネッサ・ガランテ(ソプラノ)、アレクサンドル・ヴィルマニス指揮 ラトヴィア国立交響楽団 1995年録音 請求記号 XD36443

中丸三千繪(ソプラノ)、ステュアート・ハッチンソン指揮 フィルハーモニア管弦楽団 1997年録音 請求記号 XD39082

吉田浩之(テノール)、丸山滋(ピアノ) 1997年録音 請求記号 XD39544

花木佐千(ヴォーカル)、高島正明(ピアノ) 請求記号 XD52751

John Ken Nuzzo(テノール)、Itamar Golan(ピアノ) 2004年録音 請求記号 XD54905

青盛のぼる(ソプラノ)、村上尊志(ピアノ) 2003年録音 請求記号 XD56886

望月哲也(テノール)、カール・アンドレアス・コーリー(ピアノ) 2005年録音 請求記号 XD56916

彌勒忠史(カウンターテナー)、多田聡子(ピアノ) 2007年録音 請求記号 XD60592(作曲者名:不詳)

キュウ・ウォン・ハン(バリトン)、山岸茂人(ピアノ) 2008年録音 請求記号 XD61741

* 参考文献

・Library of Congress Authorities. no 98044832 <Caccini, Giulio, 1551-1618. Ave Maria>

・『ニューグローヴ世界音楽大事典』(講談社)(請求記号 X-001/NG/4)の「カッチーニ、ジュリオ」の項目

・『最新名曲解説全集第21巻 声楽1』(音楽之友社)(請求記号 C31-870、他)の「キリスト教声楽曲概説」の項目

・金澤正剛『キリスト教と音楽』(音楽之友社)(請求記号 J110-296)の「聖母マリアへの賛美」の項目

《アルビノーニのアダージョ》

作曲者（？）

アルビノーニ、トマゾ (Albinoni, Tomaso 1671-1750)

イタリアの作曲家。オペラ、協奏曲、ソナタを数多く作曲。

展示パネル出典: Tomaso Albinoni / Michael Talbot.. - Clarendon Press : Oxford University Press, 1990.(図版 p. 3)

曲について

この曲は、イタリアの音楽学者レモ・ジャゾット (Remo Giazotto) が第二次世界大戦中の連合国のドレスデン空襲によって破壊された旧ザクセン州立図書館の廃墟から発見したトマゾ・アルビノーニの (ソナタ短調) の断片から編曲した作品といわれている。

ジャゾットによる (ト短調のアダージョ) (1958年) のリプリント版の楽譜では、数字付低音 (印刷譜) と第1ヴァイオリンの手稿譜の断片2つから復元・作曲したとされているが、著作権法によって保護されているジャゾットのオリジナル作品だという記述もある。また、この作品の元になった楽譜の断片は公表されておらず、作曲様式もアルビノーニの様式に合致していない。現在は事実上ジャゾットの創作であるとみなされるようになっている。

バロック音楽のポピュラーな名曲としてパッヘルベルの (カノン) と並んで人気があり、「審判」等の映画にも使用されている。

この曲も一般的には (アルビノーニのアダージョ) として認識されており、CDなどの作曲者表示もアルビノーニのままである。

真の作曲者（？）

ジャゾット、レモ (Giazotto, Remo 1910-1998)

イタリアの音楽学者、批評家。トマゾ・アルビノーニの系統立った作品目録を作成したことでとりわけ名高い。また、アルビノーニのほかに、アントニオ・ヴィヴァルディなどの評伝を執筆した。

1931年から33年まで、ジェノヴァ大学で学び、文学と哲学の学位を取得。その後、ミラノ音楽院でトッレフランカ、ピツェッティ、パリベーニにピアノと作曲を学ぶ。1932年から『Rivista musicale italiana』の音楽批評を担当し、1945年から49年まで同誌の編集も担当。1967年に『Nuova rivista musicale italiana』の共同編集者に任命された。

1957年にフィレンツェ大学の音楽史教授に就任。1966年にはイタリア放送協会の国際番組のディレクターを務めた。

展示資料

Remo Giazotto. "Adagio in sol minore per archi e organo"

Ricordi, 1982, c1958. 請求記号 E9-331

ジャゾットにより1958年に出版された(ト短調のアダージョ)の楽譜のリプリント版。

Remo Giazotto. "Tomaso Albinoni"

Fratelli Bocca, 1945 (Storia della musica ; ser. II, 2) 請求記号 C3-065

1945年に出版されたジャゾットによるアルビノーニの作品の主題目録。(アルビノーニのアダージョ)に関する記載はない。

当館所蔵録音資料

ジャン＝フランソワ・バイヤール指揮、バイヤール室内管弦楽団 1983年録音 請求記号 XD899

ソリスト・イタリアーニ 1988年録音 請求記号 XD6786

ジャン＝フランソワ・バイヤール指揮、バイヤール室内管弦楽団 1960年以前-1972年録音 請求記号 XD18002

ルドルフ・ウェルツェン指揮、イ・フィアミンギ 1989年録音 請求記号 XD22467

イ・ムジチ合奏団 1982年録音 請求記号 XD25079、他

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 1983年録音 請求記号 XD25414、他

カール・ミュンヒンガー指揮、シュトゥットガルト室内管弦楽団 1977年録音 請求記号 XD25420、他

ルドルフ・バウムガルトナー指揮、ルツェルン音楽祭弦楽合奏団 1976年録音 請求記号 XD25576

カール・ミュンヒンガー指揮、シュトゥットガルト室内管弦楽団 1984年録音 請求記号 XD25750

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 1969年録音 請求記号 XD25769、他

オルフェウス室内管弦楽団 1989年録音 請求記号 XD26111

ジャン＝フランソワ・バイヤール指揮、バイヤール室内管弦楽団 1989-90年録音 請求記号 XD26791

ルドルフ・バウムガルトナー指揮、ルツェルン音楽祭弦楽合奏団 1966-67年録音 請求記号 XD33067

エフゲーニイ・スヴェトラノフ指揮、ロシア国立交響楽団 1998年録音 請求記号 XD48716

ルドルフ・ヴェルテン指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢 2003年録音 請求記号 XD53070

* 参考文献

・Library of Congress Authorities. n 81079989 <Giazotto, Remo. Adagio, string orchestra, G minor>

・Remo Giazotto. "Adagio in sol minore per archi e organo"(Ricordi)の「Note」

・「ニューグローヴ世界音楽大事典」(講談社)(請求記号 X-001/NG/1)の「アルビノーニ、トマーゾ・ジョヴァンニ」の項目

・「ニューグローヴ世界音楽大事典」(講談社)(請求記号 X-001/NG/8)の「ジャゾット、レーモ」の項目

ハイドン（レオポルト・モーツァルト）の《おもちゃの交響曲》

作曲者（？）

ハイドン、ヨーゼフ (Haydn, Joseph 1732-1809)

オーストリアの作曲家。

展示パネル出典: Haydn, a documentary study / H.C. Robbins Landon. - Thames and Hudson, c1981.(p. 97)

ハイドン、ミヒャエル (Haydn, Michael 1737-1806)

オーストリアの作曲家。ヨーゼフ・ハイドンの弟。

展示パネル出典: Johann Michael Haydn / Gerhard Croll, Kurt Vossing.. - Neff, c1987.(p. 101)

モーツァルト、レオポルト (Mozart, Leopold 1719-1787)

オーストリアの作曲家、ヴァイオリニスト、理論家。ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの父。

展示パネル出典: レオポルト・モーツァルト / エーリヒ・ヴァーレンティン著. - 音楽之友社, 1991.

アンゲラー、エドムント (Angerer, Edmund 1740-1794)

オーストリアの作曲家、神父。数多くの教会作品やオペレッタ、音楽劇を作曲した。

エドムント・アンゲラーは1740年、オーストリアのチロル地方の田舎町サンクト・ヨハンに生まれた。小学校の教師で地元の合唱団の指導者でもあった父親のシュテファン・アンゲラーから音楽の手ほどきを受け、さらにインスブルック郊外の町ハルの児童合唱団に入った。1758年、ベネディクト会修道士としてインスブルックから東に30キロほどの町、フィーヒトのフィーヒト修道院に入り、当地で合唱指導者、オルガン奏者、音楽教師を務め、1794年に同院内で亡くなった。

曲について

小学校などの音楽鑑賞でもおなじみのこの曲の作曲者は二転三転している。自筆譜が存在せず、またこの交響曲の成立に関する手紙等の二次資料がないため、現在も真の作曲者についての確証は得られていない。一方、この曲の筆写譜では、ヨーゼフ・ハイドン、ミヒャエル・ハイドン、レオポルト・モーツァルト、エドムント・アンゲラー、以上4人の作曲者名のものが発見されている。

1813年、ライプツィヒのホーフマイスター社から、ヨーゼフ・ハイドンの作品として、〈こどもの交響曲 (Kindersymphonie)〉のタイトルで出版された。

1938年、エルンスト・フリッツ・シュミット(Ernst Fritz Schmid)によりオーストリアのメルク修道院で作曲者名ミヒャエル・ハイドンの筆写譜が発見された。次いで1951年、レオポルト・モーツァルトの作曲とされる〈カッサシオン〉(全7曲)が、同じくエルンスト・フリッツ・シュミットによりバイエルン州立図書館から発見され、その一部が〈おもちゃの交響曲〉と同一であることが判明した。この発見以降、作曲者はレオポルト・モーツァルトの認識が一般的になった。

また、シュミットは『モーツァルト年鑑(Mozart-Jahrbuch)』の1952年号で、アメリカのハイドン研究者ロビンズ・ランドンがチロル地方シュタムス修道院(Stift Stams)に、〈おもちゃの交響曲〉の手書き譜が所蔵され、作曲家名がエドムント・アンゲラーとなっていることを確認したことを報告している。このアンゲラー名義の楽譜は、後の1992年にシュタムス修道院の蔵書から発見されたことがニュースとして世界中に公表された。以降、真の作曲家はアンゲラーであることが有力視されている。

一方、真作者としてミハエル・ハイドンを有力視する発表もあった。1988年にマインツで行われた大作曲家全集校訂者たちによる「疑わしい作品 (opera incerta)」をめぐる研究集会において、ケルン・ヨーゼフ・ハイドン研究所ソーニャ・ゲルラッハ(Sonja Gerlach)博士による、「“子供シンフォニー” Hob. : 47 の作曲者についての譜面考証の研究」と題した画期的な報告が行われた。これは、ハイドン研究所が徹底的に蒐集したこの作品の17種の筆写譜と初期印刷譜を厳密に譜面比較することによって、伝承経路を設定しようとするもので、結論として、以下のことを述べている。

この作品の弦3部編成はバス声部の他に、ヴァイオリンとヴィオラ稿[7点]と2つのヴァイオリン稿[10点]があるが、伝承されていく誤りを正確に継承している特性からヴァイオリンとヴィオラ稿が真正である。真正に近い資料ほど作曲者をミハエル・ハイドンとしていて、なかではメルク修道院資料が誤りの少ない最上のものである。ここから、この作品は「ミハエル・ハイドン」名[4点]からただの「ハイドン」名[4点]となり、そして「ヨーゼフ・ハイドン」名[7点]へと伝承がすり替わっていった、と考えられる。レオポルト・モーツァルト稿とアンゲラー稿[各1点]はそれらとは別系統であり、伝承の初期に分岐したものと思われる。レオポルト・モーツァルト稿は唯一長調の7楽章で、2つの系統から成り立っており、本来7楽章で書かれていたものから後に3楽章が抜粋されて八長調に移調されたのではないことはほぼ確実である。アンゲラー稿は、30小節の第3楽章フィナーレが46小節に拡大されている唯一のもので、それ自体が編曲である。7楽章稿はオリジナル稿ではなく、したがってレオポルト・モーツァルトを真作者とする根拠はない。メルク修道院資料としてその信頼性は不十分であるが、反証もまたなく、ミハエル・ハイドンが真作者である可能性はある。

現在では、一般的な認識としてはレオポルト・モーツァルトが主流であるが、最近ではアンゲラー説の認識も増えつつある。

展示パネル

1785年頃、チロル地方シュタムス修道院の神父シュテファン・パルセッリによる "Berchtoldsgaden Musick" の写譜の冒頭部分

"Berchtoldsgaden Musick" とは、「ベルヒテスガーデンの玩具店製のおもちゃを使った音楽」という意味。楽器として、ベルヒテスガーデンの玩具店製の6種類のおもちゃが指定されている。おもちゃ以外の弦楽器の編成としてヴァイオリン、ヴィオラ、バス (Violino, e Viola, con Basso) と記されている。

出典: Berchtoldsgaden Musick : Kindersinfonie / Edmund Angerer. - Tiroler Musikforschung, c1997.

展示資料

Joseph Haydn. "Kinder-Sinfonie" B. Schott's Söhne, c1952. 請求記号 H16-871
作曲者名はヨーゼフ・ハイドン、タイトルは〈こどもの交響曲〉。

Leopold Mozart. "Cassatio ex G"

Verlag Doblinger, c1974. (Diletto musicale ; Nr. 300) 請求記号 H24-767

レオポルト・モーツァルトの〈カッサシオン〉全曲の楽譜。調性はト長調。(おもちゃの交響曲) は第3、4、7楽章に該当する。

Gerhard Croll. "Musik mit Kinderinstrumenten aus dem Salzburger und Berchtesgadener Land"

E. Katzbichler, 1981. (Denkmäler der Musik in Salzburg ; Bd. 2) 請求記号 A8-893

ザルツブルク大学音楽研究所編集『ザルツブルク音楽の記念碑』第2巻「ザルツブルクおよびベルヒテスガーデン地方の子供楽器を伴った音楽」。レオポルト・モーツァルトの〈カッサシオン〉全曲を掲載。

Edmund Angerer. "Berchtoldsgaden Musick : Kindersinfonie"

Tiroler Musikforschung, c1997. 請求記号 H45-730

1992年に、チロル地方シュタムス修道院の音楽蔵書の中から発見された、1785年頃、当院の神父シュテファン・パルセツリによる"Berchtoldsgaden Musick"の写譜を元に、エドムント・アンゲラーの作品として刊行された初めての楽譜。

当館所蔵楽譜

L. Mozart. "Kinder-Symphonie" Breitkopf & Härtel, [1983?]. 請求記号 H13-735

Joseph Haydn. "Toy symphony" E.F. Kalmus, [19--]. 請求記号 H20-960

当館所蔵録音資料

ネヴィル・マリナー指揮、アカデミー室内管弦楽団 1984年録音 請求記号 XD3503(作曲者名:レオポルト・モーツァルト、カッサシオン全曲)

フランツ・リスト室内管弦楽団 1979年録音 請求記号 XD4502、他(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

クルト・レーデル指揮、ミュンヘン・プロ・アルテ室内管弦楽団 請求記号 XD2495(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

アルトゥーロ・トスカニーニ指揮、NBC交響楽団 1941年録音 請求記号 XD23017、他(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

カール・ミュンヒンガー指揮、シュトゥットガルト室内管弦楽団 1984年録音 請求記号 XD25750(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、フィルハーモニア管弦楽団 1957年録音 請求記号 XD35291(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

渡邊暁雄指揮、日本フィルハーモニー交響楽団 1961年録音 請求記号 XD42410(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

近衛秀麿指揮、新交響楽団 1931年録音 請求記号 XD48610(作曲者名:ハイドン)

ギドン・クレメル指揮、クレメラータ・パルティカ 1999 - 2000年録音 請求記号 XD49919(作曲者名:レオポルト・モーツァルト)

Vladislav Czarnecki,指揮、Südwestdeutsches Kammerorchester Pforzheim 2000年録音 請求記号 XD50138(作曲者名:レオポルト・モーツァルト、カッサシオン全曲)

* 参考文献

・Library of Congress Authorities. n 84002087 <Mozart, Leopold, 1719-1787. Cassation, orchestra, G major>, n 84044498 <Angerer, Edmund, 1740-1794. Berchtoldsgaden Musick>

・大崎滋生「レオポルト・モーツァルトをめぐる2つの偽作問題と“音楽学”--“おもちゃ交響曲”と“ランバッハ交響曲”」(『桐朋学園大学研究紀要』32、p.1-16 2006)(請求記号 PB83B 32)

・Edmund Angerer. "Berchtoldsgaden Musick : Kindersinfonie"(Tiroler Musikforschung)の「Zur Identifizierung Edmund Angereres als Komponisten der Kindersinfonie」

《ハイドンのセレナード》

作曲者（？）

ハイドン，ヨーゼフ (Haydn, Joseph 1732-1809)

オーストリアの作曲家。

曲について

この曲は6曲一組の弦楽四重奏曲作品3の第5曲であり、この弦楽四重奏曲へ長調の第2楽章(アンダンテ・カンタービレ)は、長らく(ハイドンのセレナード)の名で親しまれてきた。

弦楽四重奏曲作品3は、1777年にパリのベユ社からハイドン作曲の作品26として出版された。この出版がプレイエルの弦楽四重奏曲全集に引き継がれ、作品3として出版された。

しかし、このベユ社の出版譜の他にこの曲集に同時代の筆写譜がないことや、このベユ社がハイドンと何の関係をもっていなかったことや、1760年にハイドンの曲集を無断で刊行したこと、1779年に刊行した作品28の弦楽四重奏曲6曲がすべてハイドンの曲でなかったことから、この曲が真作ではない可能性が高くなり、調査が進められた。

そして1964年に、アラン・タイソンとロビンズ・ランドンが共同で、作品3の「第1番」と「第2番」のベユ版の銅版を調査した結果、ハイドンの名が刻まれる前に、ホーフシュテッターの名が作者として刻まれていたことが判明した。

以来、作品3はホーフシュテッターの作品と見なされている。

現在、刊行中のハイドンの新全集には、作品3は含まれていない。

このため、CDなどの新録音は減ってきている。録音も全曲ではなく、アンコールピースとしての録音がほとんどである。

真の作曲者

ホーフシュテッター，ローマン (Hoffstetter, Roman 1742-1815)

ドイツの作曲家。ヨハン・ウルバン・アーロイス・ホーフシュテッターの双子の兄弟と見られる。生地に近いアモルバハ(現バイエルン州、当時はマインツの選帝侯大司教管区に属していた)のベネディクト修道会の修道院に入る。1763年6月5日に修道誓願を立て、66年9月10日に司祭に叙階された。修道院で聖歌隊指揮者を務め、数年間修道院長の任にもあった。1803年に修道院が解散した後は、修道院長とともに隣の町ミルテンベルク・アム・マインに移った。

ホーフシュテッターはヨーゼフ・ハイドンの信奉者であり、ハイドンの音楽様式に倣って自らも作曲を行なった。ハイドンの6つの弦楽四重奏曲作品3は長らくハイドンの作品と見なされていたが、現在ではホーフシュテッターの作品であることが明らかになっている。20曲の弦楽四重奏曲、3曲のヴィオラ協奏曲の他にいくつかの教会音楽を作曲した。

展示資料

Adam Gottron, Alan Tyson. "Die beiden Hoffstetter"

Schott's Söhne, 1968. (Beiträge zur mittelrheinischen Musikgeschichte ; Nr. 10) 請求記号 C11-202
ローマン・ホーフシュテッターとヨハン・ウルバン・アーロイス・ホーフシュテッター兄弟の伝記と作品目録
作品目録では、〈ハイドンのセレナード〉を含む弦楽四重奏曲作品3の第5曲は弦楽四重奏曲第19番となっている。

Joseph Haydn. "Quartet no. 17, F major, for 2 violins, viola and violoncello, op. 3, no. 5"
E. Eulenburg, [19--]. 請求記号 E8-723、他

Joseph Haydn. "Streichquartett F-Dur, Op. 3, Nr. 5 (Hoboken III, 17)"
Doblinger, c1957. (Diletto musicale ; Nr. 7) 請求記号 H25-195

当館所蔵録音資料

N響カルテット 1988年録音 請求記号 XD7643
フィルハーモニック・ヴィルトゥオーゾ・ベルリン 1989年録音 請求記号 XD24602
イ・ムジチ合奏団 1982年録音 請求記号 XD25079
カール・ミュンヒンガー指揮、シュトゥットガルト室内管弦楽団 1960年録音 請求記号 XD25640、他
ウィーン弦楽四重奏団 1978年録音 請求記号 XD26108(作品3-5全曲)
フィルハーモニア・クナルテット・ベルリン 1983年録音 請求記号 XD26273(作品3-5全曲)
ヤナーチェク四重奏団 1963年録音 請求記号 XD26315(作品3-5全曲)
ハレー・ストリング・クナルテット 1993年録音 請求記号 XD27537(作品3-5全曲)
パリリ四重奏団 1957年録音 請求記号 XD35371(作品3-5全曲)
ウィーン・コンツェルトハウス四重奏団 1960年録音 請求記号 XD36126(作品3-5全曲)
岩城宏之指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢 1999年録音 請求記号 XD47512
アルバン・ベルク四重奏団 1994年録音 請求記号 XD51110(作曲者名:ホーフシュテッター)
ストリング・クナルテット ARCO 2001年録音 請求記号 XD52633(作曲者名:ホーフシュテッター)
ジャン＝フランソワ・パイヤール指揮、パイヤール室内管弦楽団 1968年録音 請求記号 XD61748

* 参考文献

- ・Library of Congress Authorities. n 8107902 < Hoffstetter, Roman, 1742-1815. Quartets, strings, op. 3. No. 5. Andante cantabile >
- ・Adam Gottron, Alan Tyson. "Die beiden Hoffstetter"(Schott's Söhne)の「Roman Hoffstetter」
- ・『ニューグローヴ世界音楽大事典』(講談社)(請求記号 X-001/NG/17)の「ホーフシュテッター、ローマン」の項目
- ・『ハイドン』(作曲家別名曲解説ライブラリー ; 26)(音楽之友社)(請求記号 C60-741、他)の「弦楽四重奏曲 op. 3(全6曲)/ Hob. :13~18(偽作)」の項目

《モーツァルトの子守歌》

作曲者（？）

モーツァルト, ヴォルフガング・アマデウス (Mozart, Wolfgang Amadeus 1756-1791)
オーストリアの作曲家。
展示パネル出典: モーツァルト全集第1巻 特集「モーツァルトの肖像画」 海老沢敏 田辺秀樹 構成. 図1(解説共)

曲について

この曲は、モーツァルトの遺品の中に筆写譜の形で含まれていたもので、モーツァルトの妻コンスタンツェの再婚した夫ニッセンの「モーツァルト伝」で初めて紹介された。
作詞はフリードリヒ・ヴィルヘルム・ゴッター (Friedrich Wilhelm Gotter)。
以来モーツァルトの作品として親しまれ、ケッヘル作品目録初版でもK.350の番号があたえられた。
マックス・フリートレンダー (Max Friedlander 1852-1934) がハンブルクの図書館で「ゴッターの子守歌、フリース作」とされた初版本を発見し、今日では、オーストリアの作曲家ベルンハルト・フリース (Bernhard Flies) の作品と見なされている。
ケッヘル第6版もこの結果を受けて、疑義のある作品として補遺に収めている (Anh. C8. 48)。
2005年、ヘイリーが歌う〈モーツァルトの子守歌〉が映画「ローレライ」の主題歌に選ばれている。
一般的にもフリースの作品と認識されている。ただし、CDの録音は減ってきている。

真の作曲者

フリース, ベルンハルト (Flies, Bernhard)
生没年など詳細は不明。

展示資料

Wolfgang Amadeus Mozart. "Songs with piano accompaniment and canons"
E. F. Kalmus, [1968?]. 請求記号 E11-432, 他
モーツァルト旧全集のリプリント版の楽譜。

モーツァルト作曲《モーツァルトの子守歌》 セノ音楽出版社 大正13 [1924] 請求記号 F19-081
堀内敬三の訳詩により、「眠れよ子よ 庭や牧場に」の歌い出しで知られる日本語の歌詞がつけられている。

伊藤玲子編《世界名歌選集》 ドレミ楽譜, 1984 請求記号 F18-129
作曲者名はモーツァルト。実際はフリースの作品だという注意書きがある。堀内敬三訳詩付。

《独唱名曲80選》 音楽之友社, 2000 請求記号 F21-480
作曲者名はフリース。堀内敬三訳詩付。

森雅裕著『モーツァルトは子守唄を歌わない』 講談社, 1985 請求記号 C9-529
モーツァルトの死の謎が秘められた〈子守唄〉の楽譜の暗号に挑むベートーヴェンの活躍を描いた音楽ミステリー。第31回江戸川乱歩賞受賞作。

もちろん、本書はフィクションですので、〈モーツァルトの子守歌〉に関して現実に本書に書かれたことすべてがあったわけではありません。

当館所蔵録音資料

ユリア・ハマリ(メゾ・ソプラノ)、他 1985 年録音 請求記号 XD2337(作曲者名:モーツァルト)
ミレルラ・フレニ(ソプラノ)、レオーネ・マジェーラ指揮、ポローニャ・テアトロ・コムナーレ管弦楽団、合唱団
請求記号 XD19726(作曲者名:フリース)
エリザベート・シューマン(ソプラノ)、他 1927 年 - 1945 年録音 請求記号 XD31046(作曲者名:フリース)
東敦子(ソプラノ)、谷池重紬子(ピアノ) 1995 年録音 請求記号 XD34052(作曲者名:フリース)
スラヴァ(カウンター・テノール)、他 請求記号 XD38866(作曲者名:モーツァルト)

* 参考文献

- ・Library of Congress Authorities. no 96043665 <Flies, Bernhard. Wiegenlied>
- ・『モーツァルト事典』(東京書籍)(請求記号 C54-384、他)の「子守歌 K.350(Anh.C8.48)」の項目
- ・『最新名曲解説全集第 22 巻 声楽 2』(音楽之友社)(請求記号 C32-309、他)の「子守歌 K.350(C8.48)」の項目

むすび

今回、紹介した曲のいくつかは、これまで周知されていた大作曲家の作品でないことが判明した現在も、従来の表示のまま一般では紹介され普及しています。中にはその作曲家の真作よりも著名なものもあります。これは大変嘆かわしいことと言えるかもしれません。

一方、これらの曲が真の作曲者名で発表されたとして、はたして現在と同じように普及したでしょうか。実際に真の作曲者名が普及するようになって、かえって、録音が減った曲もあります。これらの曲にとってどちらが良かったのか、難しい問題だと思います。

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)
<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2009/6/26 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 三宅巖・二塚恵里